

教育長紹介



山形県
すがい ひでひこ
須貝 英彦

「子どもが自ら考え、主体的に、時に他者と協働して学びを進め、新たな価値を生み出す力を育成することが重要。現代においても『教育県・山形』と評価されるよう、質の高い教育と環境整備に尽力する。」と想いを語る。

また、「教育行政は学校のニーズを把握してビジョンを示し、教育現場の変化を後押しする役目がある。コミュニケーションを大事にして社会との良き橋渡し役となれるように努めたい。」と意欲を示す。

昭和61年に山形県公立学校教員として採用。高校改革推進室長、教育次長、県立山形東高等学校長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。61歳。

(山形県教育局教育政策課長 鏡 裕之)



福島県
すずき りゅうじ
鈴木 竜次

「一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せであるウェル・ビーイングの実現を目指し、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの転換を進める『学びの変革』と、その実現に向けた環境づくりとしての『学校の在り方の変革』を進める」と抱負を語る。

また、教育は未来を切り拓くための最重要施策であり、豊かな福島をつくることにつながるものとし、「子どもたち一人一人が主役となる教育の実現に取り組む」と意欲を示す。

平成2年に福島県に入庁。保健福祉部こども未来局長、生活環境部長、危機管理理部危機管理監兼危機管理部長などを経て、本年4月に教育長に就任。58歳。

(福島県教育庁教育総務課長 榎木 渉)



栃木県
なかむら ちひろ
中村 千浩

「学校における安全安心の確保と生命の尊重を第一に考え、学校、児童生徒、教職員にその重要性を伝えていく。」と想いを語る。

「情報化の進展など急速な社会の変革にも対応し、子どもたちが自らの可能性を切り開くことができ、様々な困難を乗り越え、豊かな人生を歩んでいくことができるよう、市町教育委員会や各学校との連携を密にして、全力で取り組んでいきたい。」と意欲を示す。

昭和60年、栃木県公立学校教員に採用され、県立茂木高等学校長、県立真岡女子高等学校長、県教育次長、県立図書館長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。62歳。

(栃木県教育委員会事務局教育政策課長 長野 辰男)



千葉県

すぎの かあい
杉野 可愛

「子供たちと先生の笑顔のために、いろいろな方の意見を聞きながら、児童生徒の教育の充実や教職員にとって働きやすい環境整備に全力で取り組みたい」と抱負を語る。

また、「子供たちがさらに豊かな環境で学べるよう、施設・設備面の整備等の県立学校の魅力化を進めるとともに、先生がより一層子供たちと向き合えるよう、人員拡充や業務量の削減等の教員の負担を軽減するための取組を進めたい」と意欲を示す。

平成14年、文部科学省に入省。高等教育局視学官などを歴任し、令和5年4月に教育次長として千葉県教育委員会に出向。本年4月に教育長に就任。47歳。

(千葉県教育庁企画管理部教育総務課長 鈴木 克之)



新潟県

おおた ゆうじ
太田 勇二

「人口減少が大きな課題となっている中、社会全体が複雑化・多様化しており、正解が一つに定まらない、場合によっては答えのない課題に対峙しなければならない。」と思いを語る。

また、「そのような社会でたくましく生きていけるよう、児童生徒の学び方や教員の教え方そのものの変革が求められている。主体的で、対話的な深い学びを通し、生涯にわたって学び続ける力を育成することが、本県教育の基本理念である『一人一人を伸ばす教育』にもつながる。」と意欲を示す。

平成元年新潟県庁に入庁。知事政策局政策統括監、会計管理者兼出納局長、交通政策局長などを経て、本年4月に教育長に就任。60歳。

(新潟県教育庁総務課長 明間 聡)



石川県

さかい まさひろ
酒井 雅洋

長年文化振興に携わった経験から、「学校でも、地元の文化や歴史を知ることは大切。生まれ育った土地を愛する豊かな心を育みたい」と抱負を語る。

昨年1月に発生した能登半島地震で甚大な被害を受けた学校の復旧・復興が当面の最大の課題。施設復旧、創造的復興等をテーマとした探求学習の充実、奥能登地域の公立学校の魅力の向上などにも取り組んでいきたいと意欲を示す。

昭和63年石川県庁に入庁。文化振興課長、財政課長、県民文化スポーツ部次長、県民文化スポーツ部長、商工労働部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(石川県教育委員会事務局教育政策課長 筒井 諒太郎)



山梨県

おぎの ともお
荻野 智夫

「ICT が普及し、いつでもどこでも学習動画が視聴できる時代、『何故学校に行く必要があるのか』という子どもたちの問いに対し、教員が自分の言葉で語れるよう、時代の変化を感じながら変わり続け、学校自体も変わっていかなければならない。」と抱負を語る。

学校の働き方改革については、「趣旨を保護者や地域の皆様にも理解してもらい、力を合わせて先生方を学校外からも支えていただけるような機運を高めていきたい。」と意欲を示す。

昭和 62 年山梨県教職員に採用。高校現場での勤務を経て、県教育委員会高校教育課長、山梨県立都留高等学校長、事務局教育監などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60 歳。

(山梨県教育委員会事務局総務課教育企画室長 石原 武人)



愛知県

かわはら かおる
川原 馨

「時代の変化や多様な学習ニーズに対応するため、魅力ある県立学校づくり、ICT教育や外国語教育、特別支援教育の充実、教員の働き方改革など、様々な教育施策に全力で取り組んでいきたい。」と抱負を語る。

また、「市町村や地域、家庭ともしっかりと連携・協力しながら、未来の愛知を担う子供たちが、いきいきと学び、自己の可能性を伸ばしていける環境を作りたい。」と意欲を示す。

昭和 61 年に愛知県庁に入庁。人事局長、総務局長、愛知県信用保証協会常務理事などを歴任し、本年4月に教育長に就任。61 歳。

(愛知県教育委員会総務課長 大谷 健二)



滋賀県

むらい やすひこ
村井 泰彦

「学校現場の教職員や保護者の皆様のご意見や、子どもたちの声にも耳を傾け、『滋賀の教育大綱』の基本目標である『未来を拓く心豊かでたくましい人づくり』に向けて、全力で職責を果たしたい」と抱負を語る。

また、「『一人ひとりの子どもの自立のため』に、教育の在りようを、『教える』から『能力を引き出す』に変えていきたい。」と意欲を示す。

平成 8 年に滋賀県庁に入庁。総務部人事課主席参事、高校教育課主席参事、総務部管理監、教育委員会事務局教育次長、子ども若者部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60 歳。

(滋賀県教育委員会事務局教育総務課長 太田 智暁)



和歌山県

いまにし ひろゆき
今西 宏行

「教育を各家庭の問題にとどめず、地域社会全体のテーマとして捉え、子どもたちをみんなで支え、育てながら、「和歌山らしい教育」を実現したい。」と抱負を語る。

また、「変動が激しく、予測困難な時代であるからこそ、子どもたちを含む県民が、未来に対し希望を抱くことができるような学びの環境づくりとともに、教育に携わるすべての人が毎日ワクワクしながら仕事ができる教育環境をみんなで作っていきたい。」と意欲を示す。

昭和 62 年和歌山県入庁。和歌山県教育委員会教育総務局長、和歌山県福祉保健部長を経て、本年 4 月に教育長に就任。60 歳。

(和歌山県教育庁教育総務局総務課長 岡本 雅樹)



高知県

いまじょう じゅん こ
今城 純子

「常に「高知の子どもの未来のために」という思いを第一に、これまでの教員としての経験などを生かし、個性や多様性を尊重した温かみのある教育行政を展開したい。」と抱負を語る。

また、「教育は現場で実施されてこそ意味を持つ。教育者の一人として、学校をはじめとする現場に積極的に出向き、現場の教職員、保護者や地域の方々の思いに耳を傾け、課題解決に向けた具体的な施策を実行したい。」と意欲を示す。

平成 3 年 4 月に高知県公立学校教員に採用。県教育委員会事務局小中学校課長、教育次長などを歴任。本年 4 月に教育長に就任。56 歳。

(高知県教育委員会事務局教育政策課長 三木 直樹)



宮崎県

よしむら たつ や
吉村 達也

「未来を担っていく子供たちの支援に関わることができるのは、非常に光栄であり、やり甲斐を感じている。学校現場を支えていくという教育行政の果たすべき役割を全うしたい。」と思いを語る。

また、「本年度は、不登校に対する総合支援の推進、子供の夢や希望を後押しする教育の推進、一人一人を大切にする教育の推進を重点事項に掲げているが、その根底にある教職員の働き方改革と魅力発信も重要であり、そのために教育委員会の組織力を最大限に高めて取り組んでいきたい。」と意欲を示す。

昭和 63 年に宮崎県庁に入庁。東京事務所長、総合政策部政策調整監、総務部長などを歴任し、本年 4 月に教育長に就任。60 歳。

(宮崎県教育庁教育政策課長 須波 勇一郎)



川崎市

おちあい たかし
落合 隆

「社会情勢が変化し、学校や教員に求められることも変わってきているが、どんな時代が来ようと持続可能な社会の担い手となる子どもたち、未来を切り拓いていく子どもたちをしっかりと育て、子どもたちが主役となって活躍できる場を作りたい。」と抱負を語る。

「地域全体を学びの舞台として、子どもたちが成長していく学びを広げるとともに、学校を地域の核として、地域の方々が様々な形で学校を支え、子どもたちを見守り、集う場となるよう、地域と学校の豊かな学びの場を創造したい。」と意欲を示す。

平成元年に川崎市立小学校教員に採用され、職員部教職員人事課担当課長、市立久地小学校長、職員部担当部長を経て、本年4月に教育長に就任。60歳。

(川崎市教育委員会事務局総務部庶務課長 細見 勝典)



静岡市

なかむら ももみ
中村 百見

「目指す学校像を『すべての子どもたちが自分らしく学び、“やってみよう”が広がる学校』、目指す子どもの姿を『自分らしく学び、仲間と学びを深める子』とし、未来に向けた教育改革に取り組んでいきたい」と抱負を語る。

そのために、「学校現場の先生方が元気な笑顔で子どもたちに向き合える環境や、子どもたちが安心して挑戦し、自分の思いや考えを自由に表現できるような学びの場を創りたい」と意欲を示す。

民間企業、高等学校での勤務を経て、静岡市立中学校教員となる。静岡市立興津中学校教頭、静岡市立中島小学校校長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。

(静岡市教育委員会事務局教育局理事(教育総務課長事務取扱) 阿部 薫夫)



浜松市

のあき あいみ
野秋 愛美

38年にわたる教育現場、教育行政での経験から、「真の教育はこどもと接するところにのみ存在する」という信念のもと、「こどもたちの『今、ここ』を大切にし、一人一人の心に『志』をはぐくむ」ことを目指してきた教育者である。

教職員の創造性と自立性を重視し、「働きがい改革」を通じて、こどもたちのためにより良い教育環境を作り出すことに全力を尽くすと、決意を語る。

昭和62年静岡県公立中学校教員に採用、5校の中学校に奉職、指導課指導主事、指導課長、浜松市校長会長等を歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。

(浜松市教育委員会事務局学校教育部参事 鈴木 公一)



北九州市
おおた きよじ
太田 清治

「生きる力である知・徳・体をバランスよく育てることを土台に、誰一人取り残さない学びや先端的な学びを推進し、子どもが笑顔で学び続けることができる学校を創っていきたい。」と思いを語る。

「北九州市の未来を担う子どもが、ふるさとを愛し、健やかに、しなやかに生き抜く力を身に付けるとともに、学校現場を支えるすべての方々が笑顔で楽しく、やりがいを持って仕事に取り組めるよう、全力を尽くしたい。」と意欲を示す。

昭和 59 年に北九州市公立学校教員に採用され、市教育次長、九州産業大学教授を経て、本年 4 月に教育長に就任。64 歳。

(北九州市教育委員会総務課長 越智 豊)



福岡市
しもかわ しょうじ
下川 祥二

「これからの時代に必要とされる資質能力を子どもたちが身につけることができるよう、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進め、子ども一人ひとりの可能性を引き出す教育を推進していく。そのために、ICTを活用した教育DXを積極的に推進し、効果的な教育施策の実施などに取り組んでいく。」と抱負を語る。

また、「子ども一人ひとりに寄り添い、不登校児童生徒の支援や、特別支援教育の推進等に取り組み、多様な教育ニーズに的確に対応するとともに、いじめ防止等に積極的に取り組む。」と意欲を示す。

昭和 62 年に福岡市役所に入庁、市民局長、総務企画局理事、水道事業管理者を歴任し、本年 4 月に教育長に就任。62 歳。

(教育委員会総務部総務課長 中川原 伸之)